

令和3年7月30日

## 緊急事態宣言を受けての市長コメント

本日、国から新型コロナウイルス感染症に関して「緊急事態宣言」が発出されました。

県下における1日当たりの新規陽性患者数は1000人を超える中、とりわけ本市においてはその3分の1に迫る勢いで伸びており、市内における一日当たりの新規感染者数が過去最多を更新するなど、非常に厳しい状況にあります。このため、各区役所では、患者調査の件数等が増大し、業務をひっ迫していることから必要な業務に集中して行っております。

感染拡大防止のためには事業者及び市民の皆様の御協力が不可欠となります。皆様の今一度の御協力をお願いいたします。

本日7月30日現在で、市内で稼働しているコロナ受入病床200床に対して、140名を超える方が入院されており、占有率は7割を超えて、病床ひっ迫度合が高まっています。これに対応するため、既に、広域医療提供体制「神奈川モデル」における病床確保フェーズの引き上げに伴い、本市においても市内病院の御協力のもと稼働病床の拡大に取り組んでおりますが、限られた医療資源の中、コロナ受入体制を拡充することは、その他の地域医療を抑制することの裏返しであり、このペースで感染が拡大すれば、コロナ以外の救急医療等にも影響を及ぼすことが危惧されます。

また、感染拡大防止のためにはワクチンの接種促進及び人流の抑制が必要であると考えます。

ワクチン接種の促進に向けましては、本市では明日からすべての年齢の方の接種予約が可能となります。

国のワクチン供給に関する報道等から、不安を覚えている市民の方もいらっしゃると思いますが、本市では大規模接種会場及び集団接種会場の予約定員の拡充など可能な限りの対応に努めさせていただいております。

一方で、ワクチン接種はあくまでも、コロナウイルスに感染しづらくし、また感染した場合の症状悪化を和らげるものであり、ワクチンを接種すれば100%発症しないというものではありません。

そのため、ワクチンの接種を終えられた方々でも、コロナウイルスの媒介者となり、その結果ワクチンを接種されていない方々への感染拡大や重症化を招く可能性はございます。どうか「自分はワクチンを打ったから大丈夫」と慢心することなく、ワクチン未接種の方々への思いやりをもって、人流の抑制・感染拡大の防止に御協力いただけますようよろしくお願いいたします。

併せて、暑い日が続くことから、熱中症による救急搬送事例も増え始めております。基本的感染症対策とともに、引き続きの暑さ対策、水分の補給、場所に応じたマスクの使い分けもお願いします。

市民の皆様、事業者の皆様には引き続き御負担・御不便をおかけしますが、御理解・御協力をお願いいたします。

川崎市長 福田紀彦